

北区民まちづくり会議 第1回地域コミュニティ賑わい部会 摘録

日 時： 平成28年10月27日（木）午後6時30分から午後8時

場 所： 北区役所大会議室

【開会】

○事務局

開会宣言

【区長あいさつ】

○松本区長

皆様、こんばんは。北区長の松本です。

日頃から、京都市政並びに北区政の推進に御理解、御協力を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本会議については、当初9月20日に予定されていたが、台風接近に伴い、延期させていただいたものである。忙しい中、再度集まっていただき感謝する。

この北区民まちづくり会議は、平成28年3月に策定した「北区民つながるプログラム」に掲げる目標達成に向けて、去る6月22日に第1回の全体会議を開催した。

その場において、より掘り下げた議論を行うため、人口減少に歯止めをかけることを目指す「ひと・まち活性化部会」、自治会等加入率の向上を目指す「地域コミュニティ賑わい部会」を設置することとした。

しかし、人口減少や自治会加入率というのは、地域の皆様の協力なくしては解決し得ない問題であり、さらに、この問題は北区役所だけではなく、消防や教育といった、北区に住む、あるいは北区で働く全員に関わる問題である。

そのため、より一層、議論を深めるべく、地域代表者会議の皆様、行政推進会議の皆様及びまちづくり提案支援事業審査会の皆様にもお越しいただき、オール北区としてこの問題について議論し、取り組んでいきたいと考えて、本日、お集まりいただいたものである。

本日は、第1回地域コミュニティ賑わい部会として「自治会等加入率の向上」ための議論を行っていただく。安心安全や健康長寿、子どもや高齢者の見守りなどの問題について、各学区において主体的に取り組んでいただいているが、自治会や町内会があってこそその取組であると認識している。自治会や町内会の加入率についての問題は、まちづくり活動の根幹にかかわる問題であるため、皆様におかれましては、チーム北区として、知恵を出し合うことにより、自治会加入率向上に向けた活発な議論が交わされることを願っている。

本日は、最後までよろしく願います。

【議事】

○事務局

続いて、初対面の方々もいるため、自己紹介をお願いします。

<各委員自己紹介>

それでは本日の会議を始めるが、まず、簡単に、6月22日に行われた会議の振り返りについて、事務局から説明させていただく。

<資料（2-1）～（2-5）に基づき説明>

それでは、本日の会議を始める。会議の進行については、本部会の部会長である関谷先生にお願いする。関谷先生、よろしく願います。

○部会長

それでは、手元の次第に従い、議事を進行する。議題（1）京都市における自治会・町内会加入について、ワークショップに入る前に、京都市の現状について事務局から説明をお願いします。

○事務局

<（参考資料）に基づき説明>

○部会長

ありがとうございました。

事務局からの説明は、京都市全体のものであり、北区の実情は北区に住んでいる地域代表者会議の皆様が最も把握していると思う。そういった方々の声を直接聞くことができる、また共有することができるというのは、今後、具体的な議論を展開していくうえで大変重要であると認識している。

この後、皆様にはグループに分かれ、グループ毎にワークショップ形式で議論をと考えているが、まず、テーブル毎の議論を始める前に、各地域代表者会議の皆様に、各学区の町内会加入率や未加入者の声、加入率アップに向けた取組事例など、5つの項目について発表いただき、それをもとに、議論していただく。また、ワークショップ終了後、まちづくりアドバイザーの皆さんに、テーブル毎の議論内容を発表いただくが、その際にも、まず、各学区の取組事例等を発表いただき、その後に議論内容を発表いただく。

今回の会議は、問題点や取組事例の共有が最大の目的であるため、具体的な取組内容まで議論いただく必要はない。その点を了解のうえ、議論していただきたい。

それでは、ワークショップの方法について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<ワークショップ説明>

【各テーブルのワークショップ】

<Aテーブル>

■各学区の現状について

○会長

加入率は3,600/5,800世帯(約62%)。収入が減った。各団体に配布する助成金も減ってきた。当学区は80歳以上が711名いる。地域における支え方が大切であり、多くの方を対象とした催し物を実施している。しかし、グラウンドゴルフに参加するなど、こちらの取組に参加してもらえず、グループが固まってしまう。小学生も昔800名近くいたが、今は300名程度にまで減少している。空き家も多く、火事などの不安もあり、地域として考えていかなければならないと考えている。人と人のつながりが大切。当学区はマンションは少ないが、マンション住人全てが未加入の場合もある。30~40代の方に地域へ関わってほしい。火事などの不安もあるので、声掛けをするが、玄関を開けてくれない。声を聞くだけになる。第3土曜日に健康教室を実施しており、65歳以上の方を対象に福祉会館に招き、ゲームなど取組を行っている。

○会長

3,035/3,744世帯(約81%)。数値は、市民しんぶんの配布世帯。マンション等は、町内で配れてないと思う。未加入は、町内に1~3軒と聞いているが、マンションが1棟入っていないという事例がある。マンションには、これから対応し、話を進めている。マンションのオーナーが変わって、町内会を抜け、連絡ができない状態になっているので、住民さんに、組織を作ってくれないかと持ちかけている。しかし、町内会長も、マンションと接点がないので難しい。新しいマンションであれば、建築業者から加入してもらおうよう、お願いするのだが。加入という面では、町内会が動きをつかんでくれている。地蔵盆は、どの町内会でもやってくれており、そういったつながりはある。ただし、子どもが減少しており、やめようかという町内会もある。

悩みとしては、路地が多く、火災の危険性が高い。また、船岡山が近く、不審者も出る。

○会長

加入率はほぼ、100%だが、事情が違う。昔の村議会の延長であり、全世帯加入が基本。しかし、最近、高齢者世帯が1軒抜けた。いくら事情を聞いても教えてくれない。平均年齢が65歳以上で、限界集落である。小学生が0人、中学生が2人。子どもの声が聞こえないというのは寂しい。1人暮らしの方が増えてきている。その方が亡くなると、空き家になる。空き家は現在、5軒程度。外部からの移住者について、色々な取組をして、いい地域だと思ってもらいたい。住民も、移住を拒否する人はいない。ただし、市街化調整区域なので、新たに建築はできない。改築はできる。市街化調整区域なので、若者が出て行ったという経過もある。

高齢者の見守りについては、各種団体、特に社会福祉協議会が実施している。地域全員がほぼ、顔見知りなので、都市部のように、誰がどこに住んでいるかわからない、という状態

はないので、そういった意味では安心できる。

■各学区の取組、学生との関わりについて

○会長

今年の4月から、第4土曜日に認知症カフェを実施しており、落語や音楽などを楽しみながら、200円でコーヒーとケーキを食べられる取組を実施している。社会福祉協議会等、あらゆる団体に支えていただいて、実施している。認知症の方も来ているが、普通に話されており、認知症だとわからない。しかし、社会福祉協議会としては、そういった方々を支える必要がある社会になっている。行政も、社会福祉協議会にボランティアとしてお願いしてくる。各種団体15団体に色々活動していただいているが、主な活動主体は体育振興会である。年間行事も多く、率先して活動していただいている。40～50代の若い方がおられるのが要因。福祉というものがあり、そこ社会福祉協議会と私とで、認知症や高齢者の方の取組をしている。カフェ等の実施メンバーは、常時3名、プラス数名で35名程度の出席者をお世話する。

学生との関わりについては、地域と大学との会合があるが、我々からすると、行事の一部の報告をしているにすぎないと感じる。地域に入って活動するということがない。下宿生との関わりについては、苦情がほとんど。

○会長

当学区は、近隣大学に非常にお世話になっており、学生が学区を盛り上げてくれている。前会長がカルチャー亭を作り、まちあるきでまちの魅力再発見をする際、高齢者を呼んで参加してもらい、地域おこしをした。お年寄りも非常に楽しんでおられ、それが盛り上がり、コーラス部もできた。コーラス部の活動にも、大学のサークルが同行していただいている。

○会長

私もその活動は聞いている。大学は非常に協力的と聞いている。

○会長

地域に入ってきてくれているので、大変助かっている。カフェ事業を月2回行っているが、毎回、5～6人は手伝いに来てくれる。コーヒーを配ったりしてくれるが、ある程度、人数が揃うと、自発的にテーブルに入って、一緒に会話をしてくれる。演芸などのイベントはいらない。逆に邪魔である。会話を楽しんでおられる。

ただし、地域の高齢者と学生とのつながりであり、自治会等の次世代の担い手の問題については課題である。若い世代にも参加してほしい。

○会長

消防団に学生の斡旋をしてもらっている。

○委員

市内の学生消防団員は約140名で増えており、北区が最も多い。口コミで広がり、後輩を誘って入団する場合もある。

○会長

大学生が1つの学区の団員になっており、消防査閲に行ったとき、その学区が非常に多かった。

○会長

住んでいる学生と地域の接点はない。アパートに表札もない。

○会長

当学区は、大学の卒業生がその大学に就職し、当学区に住み、その学生が地域のお祭りを企画してくれている。また、学生も連れてきてくれる。学生マンションは当学区にあまり多くないが、町内運動会にはよく出てきてくれる。自然と、町内会と結びついてくれている。

○会長

町内会加入については、移住の時にお願いしている。セカンドハウスの的に住んでおられる方もいる。不動産会社が空き家の仲介をしてくれている。当学区に魅力を感じてほしい。現在、文化的景観の指定に向けた取組を進めている。先月も小学校に泊まり込んで調査していただいた。活性化の材料になればと思う。文化的景観の指定を活かして、まち起こしをしたい。

○委員

学生と地域の関わりについて、住んでいない学生はどのように関わればいいのか？

○会長

秋はどの学生も忙しいらしく、来てくれない。来てくれるのは、サークルの1年生が落語の練習がてらに来る程度。地域に若い担い手がないので、その点を学生に期待している。

<Bテーブル>

■学区の町内会加入率について

○会長

町内会加入率は、1,700世帯中1,300世帯の76.5%で比較的高いと思う。

未加入の方については、施設に入居されていたり、年金暮らしの高齢者の方で経済的な問題があったりという理由が多い。

日々のウォーキングにおいて、知らない人でも挨拶をし、信頼性を構築していくことが加入へとつながっていく。いきなり、引っ越してこられた方に、加入を呼び掛けても断られる

ことが多い。また、声かけにより防犯対策にもつながる。

加入率アップについては、特段、取組をしていない。学区内にあるホテル等の企業からの協力金、町内会からの分担金により、自治連合会の運営を行っている。

また、防犯の取組として、京都市の助成を受けて去年から防犯カメラを設置しており、今年で7台設置予定である。

自治連合会においては、日頃から各町内会に対して、未加入者に対してイベントの案内等について丁寧な声かけをし、入りやすい雰囲気作りをお願いしており、温かい学区づくりを目指している。

○会長

当学区は市街化調整区域になっており、新築ができない。平均年齢が65歳を超えており、学校は休校しており医者もいない。40歳代、50歳代がほとんどおらず、高齢者ばかりの学区である。

町内会加入は118世帯中116世帯である。新たにお住まいの2世帯だけが未加入である。なぜ入らないのか、理由はわからない。

ピーク時は140世帯あったが、バブル崩壊時に北山杉が売れなくなり、若者が都心部へ流出し、人口減少が顕著になった。残っているのはその親世代だけであり、一人世帯も増加している。

町内会加入よりも、どうやって新しい人を呼び込むかが問題である。

■加入率アップに向けて

○会長

新しく都心から来られた若い方に未加入者が多い。しかし、子どもが入学し、地藏盆や運動会などの行事をきっかけとし、加入される方が多い。個人経営のマンションの多くはオーナーの意向により未加入となっている。また、老人保健福祉施設の施設全体での加入もある。

加入前提として、押し売りするのではなく、人間関係を構築することを大切にしている。

■町内会費について

○会長

町内会によって違いはあるが月額400～500円くらいである。

○会長

今は年間8,000円であるが、以前は10,000円であった。

■その他

○会長

やはり人口減少、空き家の増加に危機感を感じている。

空き家をリフォームして移住される方もおられ、今後も自治会として取組を進めていく。

○松本区長

P T Aの内部において自治会について話題になることがあるか。

○委員

私の住んでいる学区は土地に空きがない状況において、住民の入替わりが頻繁にある。

マンションにお住まいの方は、加入状況が把握しにくい。

子どものいる世帯においては、地藏盆や区民運動会などの地域行事をきっかけに加入することがある。逆に子どもがいない世帯であると、役員になること、町内会費の負担感が未加入の要因となる。

○会長

昔は、住んだら町内会費を払うということが当たり前であったが、現在は払うことの意義を考えられる方がおられ、その方にとって、メリットが感じられないと、未加入になる。

○まちづくりアドバイザー

まとめると、新しく住まわれた子どものいない若い世帯に未加入者が多い傾向があるようだ。子どもは、メリットとして加入の契機となる一方、抜ける理由にもなっている。

○松本区長

以前、住んでいる地域で自治会長をやっていたが、子どもが成長し、加入メリットがなくなり脱退されたり、高齢の世帯においては役員になること、町内会費の費用への負担により脱退されたりするケースがあった。

<グループC>

■各学区の現状等について

○会長

世帯数は、2, 753世帯、そのうち、町費を払っている世帯は1, 534世帯。そのため、55.7%が町内会の加入率となっている。独り者のマンションがあるのと、学生が多い。

未加入の理由として、まず入ってもメリットがないという点、また、高齢の一人暮らしが多く、年間町費を5千円ほど支払うことが負担になっている。町によって違うが、月300～400円で年間、約5千円になる。

高齢者の世帯は、何もメリットがないと言われる。月6万円ほどの年金世帯で年間5千円の負担は大きい。町内会に入っていないなくても、市民しんぶんや回覧板は回している。

○事務局

町によっては、町内会に入っていないければ、市民しんぶんや回覧板も回さないというところもあるが、どうか。

○会長

回して要らないというところもあるが、それ以外は、町費を払われていなくても回している。

そのため、町内会に入らなくてもデメリットがなく、生活が出来る。高齢者の1人暮らしで町内会に入っていないからといって、村八分的なことにはならない。するなど言っている。

町内会に入りたくないから引っ越してきたのに、何でわざわざ入らないといけないのかという人もいる。

また、加入率アップの取組は特にしていない。というのは、町内会長は1年で替わる。年度初めに加入率アップをお願いするが、実際はそこまで出来ていないのが現実。

○まちづくりアドバイザー

私の家は副会長をしているが、会計など忙しく、加入率アップにまでたどり着かない。

○事務局

町内会長は100%、1年で替わるのか。

○会長

100%替わる。町内会長が市政協力委員を兼ねているので、市政協力委員も1年で替わる。

○委員

自治連合会の会長はいるのか。

○会長

自治連合会はなく、社会福祉協議会がその役割を担っている。自分は4つくらい役を持っている。うちの学区でも18ほど各種団体があるが、その代表を社会福祉協議会で務めている。

○委員

他では会長のなり手がいないこともあるが、会長職が力を付けていて、そこにお金を出したくないという意見もある。また、当学区は立命館が近く、留学生が多く住まわれているが。

○会長

留学生の寮が出来た。昨年12月に当学区から寮生に交流会をしましょうという呼びかけをして、今年の9月にはお礼の形で立命の方から交流会の呼びかけがあった。学区から80名ほど参加した。また、来年の6月にも立命側から開催してくれるよう。今年の12月にはお餅つきの大会をしましょうというポスターを英語で作って大学に持って行った。

○委員

それは、加入率アップにつながる取組になるのでは？

○会長

学生さんなのでなかなか難しい。留学生は2年で帰るので難しい。一般の学生についても長くて10年ほど。

○委員

寮以外の学生はどうか。

○会長

呼び掛けは大学にしているが、来てくれない。

○事務局

大学側から学生に対して、地域に入ってと言ったような呼びかけはしていないのか。

○会長

してくれている。中には、興味を持つ学生さんがいて、熱心に取り組んでくれることもあるが、その人による。多くはない。

○まちづくりアドバイザー

自治会の加入ではないけれど、寮との関係性は、成功例ではないか。学区の祭りや運動会などには参加してくれているのか。

○会長

寮生は、こちらから参加を呼び掛けて来てくれている。さらに、呼び掛けはしていないが百鬼夜行のイベントの時に、オリジナルの仮装をして来てくれて驚いた。参加できる子は日本語を話せる子が多い。

○まちづくりアドバイザー

私も百鬼夜行に行った。なぜこんな外国人の方が多いのかと思っていた。色んな恰好をしている人がいた。

○会長

当学区は氏神さんが3つある。北野天満宮, 大將軍神社, 六請さんと祭りが違うから困る。

○まちづくりアドバイザー

逆に、沢山行けていい場合もある。

○会長

町内会加入については、町内会長さんにお任せしている。何か困ったことがあれば、助けるが、普段のことはそれぞれの会長さんにお任せしている。以前にマンションの建設でもめたことがあるが、建設自体は京都市が許可を出しているので、どうこうすることはできない。

また、町内会との関係でいえば、マンション自体は町内会に入っていないが、小学校に通っている子どもがいる場合にその世帯側から町内会に入りたいというような相談がある。その場合については、1世帯だけでもいいから、どうぞ入ってくださいと言っている。小学校の中で、町内会に入っていないことが、除け者にされる恐れがある場合があるということかもしれない。

○委員

子供会というのはないのか。

○会長

子供会というのはない。地蔵盆はあるが。

○委員

そもそも、加入者を増やしたいという気持ちは、みなさん持っておられるのか。

○会長

メリットがないと思われている方が多いので・・・ただ、空き家が民泊になり、トラブルが起こらないかというような懸念はある。

○委員

メリットがないという点について、私は最近町内会に入った。子供が出来たことがきっかけ。ずっと京都に住んでいたが、これまで、声かけされたこともなかったし、メリットも感じていなかった。子どもができれば、地蔵盆もあるし、周囲に助けてもらわないといけないことも増える。そういうタイミングであった。

○まちづくりアドバイザー

ご夫婦二人だけの時に、声は掛からなかったのか？

○委員

声かけられたことない。一戸建だが。

○会長

隣同志は引っ越してきましたという挨拶はするが、その後、特に町内会に入らなくても、なにもデメリットがなければ、あえて入ろうということにならないだろう。

○委員

元々は町内会費も払っていなかったし、町内会長も知らなかった。

○委員

私は入っている。入るものだという意識があった。ただ、一般的には損得の話になっている。入っていて当たり前という時代ではなくなっている。会費に見合わないと思う人は入らない。

例えば、子供さんが巣立たれて、1人になった時に、メリットがないので、じゃあやめますというのは身勝手だと思う。だけど、身勝手と思われたくないから、入っているという人も多いのではないか。自分は会費を払っているのに、掃除やなんやしないといけないということで、入っていない人を身勝手と思う人はいると思う。極端に言えば、市政協力委員制度もやめて、お金を出して業者にやらしてもらえば済むこと。

○会長

京都府のしんぶんは業者が入れている。会費について、年に1回必ずご飯食べる会をしている。3,000円～3,500円くらいのご飯の会をしているが、その日参加するのに700円だけ出したら参加できることにしている。なので会費の中から補助している形。ただ、毎回参加する人が決まってくる。その他に運動会に行けば、昼ごはんやおやつを町内会から出している。敬老会で75才になる人に500円の商品券を出したりもしている。会費は残らずに100%使っている。会費を出してもらって損がないように返している。そこに自信は持っている。

○委員

会費は年一括支払であり、年金生活になると、その負担は大きい。

○会長

月々数百円ならできるかもしれないが、回収する人の負担が増えてしまうので、年1回にしている。

○まちづくりアドバイザー

委員の話の中で身勝手というような言葉があった。私は双ヶ丘に住んでいて、複数町内会合同の掃除がある。この場所に住んでいるというだけで清掃作業があるのは大変だが、結局は自分たちが日常関わる場所なので清掃する必要性を感じている。

○事務局

メリットがないというところについて、自分は、子供が巣立って行って、今、町内会に関わるメリットがない世帯になっている。私自身も役を持っているが、負担感が強い。

○委員

町内の親睦という点についてどう考えるかということだと思う。区の境目に住んでいる人などは区を跨いでうろうろしているし、町内というものについての意識がどれだけあるのか。ずっとそこに住んでいて、近くの小学校に通っていた人なら愛着もあるかもしれないが。

○会長

特に若いお母さんなどは嫁いできていることも多く、外の人が多い。ご主人はその学区の方という。小さい子供がいて、お母さん同士で仲良くなって地域に関わってくれることもある。

○委員

お母さん世代も専業主婦じゃなくて、仕事を持たれている方もおられ、仕事をしている人と専業主婦とでは負担感に差がある。PTAなども同様かもしれないが。負担感と身勝手という点が入り乱れて、町内会も難しくなっている気がする。

○まちづくりアドバイザー

メリットがないというところについては、無理に入れとは言えないが、入りたい、または入ってもいいという気持ちを持っている人をどうやって吸い上げるか。

○事務局

私はそれに合致する。マンションに住んでいるが、町内会の入り方が分からない。マンションとしては町内会に入っていないので。

○会長

マンション全体では入らないところが多い。一番いいのはそこの町内の町内会長を見つけて、直接言うのが早い。

○委員

積極性のない人、だけど、声かけられたら入るといふ人をどうやって引き込むか。

○まちづくりアドバイザー

町内会の入り方というようなチラシがあつて、そういったきっかけがあれば、入ることにつながるかもしれない。

○事務局

例えば、町内会について市が作っているチラシなどを各戸に配布したりされているか。

○会長

配っている。

<Dテーブル>

■加入率について

○会長

町内会はあるが自治連合会が組織されていないため、町内会を学区として直接、取りまとめる機能がない。前任の社会福祉協議会の会長は一時期、市政協力委員と体育振興会の会長を兼任されていて、その方自身が自治連合会の様な役割を果たされていた。現在はそれぞれの組織等に各々の会長が就いており、総合的に取りまとめる機能がない状態になっている。そのため、加入率は把握している範囲で9割5分ぐらい。

○会長

加入率は70%ぐらいで独身マンションに未加入が多い。一般家庭はほぼ入っている。

引っ越して来て、未加入の方がいる。理由は分からないが、加入への働きかけは行っている。

○会長

旧村のため、自治会から離れている人はほとんどいないが、住民票はあるが居住の実態がないことが散見されるため、90%以上というところである。

○会長

先ほど加入率9割5分と発言したが、学生マンションも含めた場合は7割弱位であろう。

■未加入者の声、理由について

○会長

例えば中京の方に住んでいて、セカンドハウスとして利用しており、居住実態がないので入らない。学生の場合は、入っている方が珍しい。

○まちづくりアドバイザー

学生がなぜ入っていないか分かるか？

○会長

声をかけても恐らく入ってくれないため、手間もあり、声をかけていない。学生マンション一棟単位で会費をもらうことはある。

○まちづくりアドバイザー

他区でもこういう話をするが、入ってもメリットがないという声が多い。北区においても

そのような声があるのか？

○会長

言われることはある。それに対してはこちらから、町内会費を払わない場合、ごみ捨てはしないでください、と言うぐらいの勢いが必要と考える。

○委員

最近、お年寄りの方で、今までで入っていたのに辞める人が増えてきた。役が高齢の単身世帯でも回ってくるのが理由である。

昔は、2、3年続けてやっていたが、現在はやっていない人が多いので、年齢関係なく、くじ引きで当たる。

さらに会議が夕方に開催されたりするため、暗い中、足元の覚束ないのに会場まで行かなくてはいけないのも負担になっている。

○会長

組長が一週間で変わった所もある。

○まちづくりアドバイザー

高齢で辞めるというのは他の学区でもあるのか。

○会長

経済的な問題で「私ら年金生活やし」というのが殺し文句になっている。

○会長

町費は各学区いくらか？

○委員

当学区は多めで、年間6,000円である。

○会長

当学区は年700円だ。ただし、時代祭とかお宮さんといった行事の際は別途、集める。

○委員

昔は行事の際、募金で集めていたが今は町内会費から賄われることが多い。

○会長

土曜日の午前中、会館で会費集める。なあなあにしておくことも大事ではないかと思うし、町内会費からの一括徴収は止めておこうということになっている。

また、社会福祉協議会と自治連合会の会長を兼務しているからこそ出来るが、それぞれが独立しているとできない。

○会長

ほぼ100%加入の当学区において、未加入は新規の転入者が多い。入らない理由は個々にある。また最近嬉しいことに、5、6年住んでおられた方が去年、町内会に加入され、農協の女性部としての役割を果たすといったこともあった。

○まちづくりアドバイザー

加入に至る何かきっかけがあったのか。

○会長

事情を聞くと、その方が特別扱いされていると思われるので聞いておらず、普通に付き合っている。

旧村で一番大事なのは他者をどのように受け止めるかということである。これは都心部においても同じことが言える。北区のある有力な地域では、氏子に入れないという話もあるが当学区では誰が来ても歓迎している。

それぞれの地域に歴史がある中で、新しい人と古い人という分け方をせず、新しい人の意見も聞いて現状に適した地域の運営方法を模索している。そうでないと地域の力が発揮されない。例えば今年の運動会においても、強制でもないのに、新しい人も含めてちゃんと募金して、競技にも参加している。わけわけしてというのが段々なくなっている。そうでないと過疎の村で集落を維持できない。

地域に関わりのなかった人がどんどん入ってきて、旧来からの住民が、自分たちの従来の生活に不安を抱え、新しい住民をガードしてしまうという問題が、北区の新興住宅地においてもあるのではないかとおもう。

その一方、北山三学区は市街化調整区域の縛りがあり新しい住民を中々受け入れられない中でも、地域に溶け込んで付き合いをしている所帯が何軒かできてきている。

地域の伝統的な祭に新しい子も参加できるとすると一気に加入数が増えると思う。入って同じように会費を負担して、伝統に参加できないのかと思っている人は多いと思う。

○まちづくりアドバイザー

加入率アップについて他の学区で取り組んでいることはあるか、

○会長

そもそも、若い世代が入ってこないのが年寄りが死んでいったら加入率は下がってしまう。

○まちづくりアドバイザー

先ほど町内会費が安いという話があったが。

○会長

町費は初めから安いし、値上げすると反対がでる。町費を安くしたのは加入率アップのためではない。

○会長

滅多にない話だが最近、町内のある大きい家が無くなって6軒か7軒の新しい家が建った。そこに町内会長が声掛けにいて、何十年ぶりかに新しい組が出来たこともある。

やはり声掛けはすべきである。地域の氏神さんの場合、宗教上の理由から入らないという話もあるが、町内会はそこに住んでいる以上は、口説いてでも入ってもらわないといけない。

○会長

当学区においても声かけは行っていて、案外加入率が高い。入っていないのは学生だけである。

学区内にはゲストハウスもあるが、以前に新規の建築計画があったが、町内会加入と承諾を条件に反対した経緯があった。

○会長

地域のみんなは、運命共同体であると意識し続けたいといけな。印象的な出来事として、地域における定期運行バスの最終運行の際、普段は自治会とあまり関わりのない転入者の方や、地域出身で現在は住んでいない知人までも、わざわざ乗車されているのを見て、私自身が思ってもいないところで、バスに思いを寄せていただいていることが嬉しかった。

自治会の加入率は問題の背景の概念に過ぎず、そもそも地域は運命共同体であるということの意識が大事ではないか。

例えば神戸の震災の時、自治会で地域貢献の少ない人が避難所に大挙してきたという話があった。京都の場合、古い町家が密集し、コミュニティを支える為に各々が社会的な投資を高密度にやっている。それを有事の際に享受するわけで、日ごろはなにも協力もしない人がいるのはおかしい。それは（加入の）訴えかけの文章に今一つインパクトがないのではないか。

また、新しい人を受け入れる際も、お互いじっくり時間をかけて意思疎通をし、既に住んでいる人との納得できる関係性の構築が重要である。

京都の地域組織のレベルは高い。北区の学区代表者だけでなく社協代表、自治会の代表も入り大きな事をやればよいのではないかと思う。

加入の苦労の話はどこでもしているので、一般的な議論をするより、加入率をどう上げていくために、何がネックになっているかを意識しなければならない。

○委員

具体的にどういう事がネックになっているのか。

○会長

加入することによりどんなメリットがあるのか。例えば、災害の際、町内会に入っていれば優先的に物資が届くとか、そんなことやったら、平等の原則に反してしまうが、ではわざわざ会費を払い加入している人に一体何のメリットがあるのか。未加入の方が有事の際、堂々と権利を主張し、ごみ出しについても同様である。

一刀両断に割り切れないが、加入率アップにはどうすればいいのかについて、もっと論点を絞りこんだ細かい議論をした方がいいのではないか。

○委員

当学区では少しでも加入率を増やすために、新しく転入された方に対し、各町内会長に率先して行ってもらっているが、町内によってはまちまちである。

災害時に、お年寄りや小さな子供の有無を把握するため、町籍簿を作っているが、個人情報で苗字は言うが名前は言わない、電話番号は教えられないという人が中にはいるが、全部書かれる方も結構いる。

災害時の救援のためにと目的を明記して行くようにしているが、それほど増えない。

ちなみに、加入率は平成24年度から28年度の5年間で70%に届かない。世帯数が4,500～4,600世帯、加入数が2,800～2,900世帯。

市の資料で全体は70%ぐらいになっている。75%ぐらいにしたいが気だけ焦ってはいけなと考えている。

○委員

私の住んでいる学区は、若い人もお年寄りも、自分のことにならないと入ってこないのが、例えば今、災害が起きたらどうするか、その時に助けあわないと大変だから、コミュニケーションしてみるといった取組も必要である。

先日、先斗町において火事があったのを契機として地域の皆で火事の見守り隊を作り、消火器を設置するなど取組をされている。他人事でなく自分ごととして考えられるきっかけがあるといいのだが。

<Eテーブル>

■各学区の現状について

○会長

町内会について、4月1日時点では、1,199世帯から町内会費をいただいている。全体は1,494世帯。年金受給で町費を払えない人や、学生マンション、ワンルームマンションが加入していない。シェアハウスも未加入。加入率UPについては不動産屋に依頼し、入居する際は町内会に入ってもらふ必要があるということをおオーナーから言ってもらふべき。昔からのマンション住民は、全体で1軒として加入していただいているが、個々の案内については、町内会に任せている。高齢化につれて加入軒数は減ってくる。何のために加入するのか、という発言が出るなど、地域で暮らすにあたってのモラルが減っている。伸び悩

むというより、伸びることがない、というのが現実。

○会長

5,338世帯のうち、町内会費をもらっているのが2,900世帯。高齢化社会であり、子どもが出ていくと、受け継ぐ世帯がなく、役が持てない。また、子どもが小学校を卒業すると同時に脱退する。また、団体で抜けるケースもある。160軒くらいある町内で、残ったのが17軒。説得したが、残ってくれたのは2軒だけ。たまたま、当学区は自治会館を建設しているが、災害備蓄品がない。災害の時、どうするんだ？と聞きに回り、寄付をお願いしたところ、それには応じてくれた。町内会に入っていないなくても、そこにはお金を払っておかなければならない、と考えているようである。加入率アップに向けては、役所からのビラを未加入者に個別配布している。未加入者には、市民しんぶんを配らないのも問題。現状では、一部の地域では、自治連合会の庶務が直接配布している。全42町内会ある。

○会長

おおよそであるが、約4,300世帯のうち、加入が約3,000世帯。町内会長によって、調査の方法もあるが、正確かどうかはわからない。町内会は全53町内会。ただし、そのうち1町内会が事実上なくなったところがある。その理由は、小学校の空き教室で会合をしているので、その町内会は立地条件が悪く、佛大の近くにあり対角線上にある会場には遠く、また、坂道も多い。その上、会合は夜間が多く、特に高齢の女性には危険も感じられ、煩わしく思われている。その他、役が大変という理由もある。

高齢化や独居世帯、費用的な問題などで活動ができない。しかし、そういう方には、こちらからお世話をしなければならぬ。若い頃にお世話いただいたのだから、そのお返しの意味で、町内会費を割引するのも方法だ。それは自治連合会ではできないが、町内会としては考えてもいいのではないか。

また、集合住宅については、賃貸の单身、学生世帯は入ってくれない。世帯を持っておられても、賃貸世帯は入会率が低い。マンション全体で入ってくれているところもあるが、大きな敷地が税の関係等で空地になった後に、複数の建売住宅が建築され、入居された当初は町内会に入会されたが、翌年には話を合わせたようにほとんどが脱退したところもある。比較的、若い世帯にそういった事案が多いと思う。

また、役が大変など、デメリットばかりを強調される。何らかのメリットは必ずあるはずなのに、理解しようとしぬ。

○会長

全体4,600世帯のうち、加入世帯が2,600世帯。統計によると、分母は4,973世帯。この差は、調査において、とある区域が別学区に参入されている。しかし、それでも6割程度の加入。所帯数は増えている。転出も多い。転入者について、加入率が低い。転入者は若い夫婦が多く、共働きなので、入りにくい。また、高齢者は役を持つことを嫌がる。また、地域的に坂が非常に多く、不便である。これまでの10数年の経過を見ていると、

所帯数は増えており、昔は加入率も増加傾向にあったが、それが横ばいになり、ここ数年は減少傾向にある。加入率UPについては、一昨年、区の補助を受け、学区のいいところのビラを作った。それを前提として、昨年、キャンペーンを実施し、ビラの裏面に学区行事を印刷、配布した。その成果かどうかは不明だが、60世帯ほど増えた。ただし、取組を進めるに当たっては町内会長にも負担が多くかかり、あまり積極的にはできない。町内に何人かのグループがあり、抜きたいという風潮がある。マンションは2棟あるが、両方とも、加入してくれている。ケアハウスも加入してくれている。キャンペーン期間に有料老人ホームも加入してくれた。

■町内会費について

○委員

町内会費はいくらなのか？

○会長

23町内あるが、金額はバラバラ。子どものための地蔵費（地蔵盆費）を切り離したとして、最も安いのは月額250円、高いのは600円。自治連合会で集めているわけではなく、町内会で集めている。自治会費は1000円で、年間1,100円であり、約120万円ほど収入がある。そのお金は体振や少補などに配分している。町内会費はそういった団体に入らない。いかにして、今の加入者を離さないかが大事。当学区はその昔、西陣織の下請け会社がほとんどであり、町内会に加入しなければ、村八分のようにになっていた。そのため、暗黙の了解で、加入が当たり前になった。学区として、収入源を絶たれないため、まちづくりを行う必要がある。コミュニティ活動を頻繁にしなければ、学区の取組は陳腐化する。UPというより、現状維持の取組を実施している。大きな学区とは事情が違い。学区全体が少子化であり、小学生120人程度しかおらず、小学校の統合が検討されている。そうなると、空き教室が増え、スペースが増えるため、居場所づくりができると考えている。

○会長

町内会費はおよそ、年間2,500円。うち、1,800円が自治連合会に入る。

○会長

町内会費は月額300～400円、うち、年間1,000円が自治連合会に入る。

○会長

年間2,500円。町内会から各団体に分担金を支払う分だけ。逆に、町内会での活動ができない。

○会長

お金をもらって、何をするのか、という話になる。事業をしようと思えば、お金が必要。

それがわかっている人ならいいが。

○会長

良い取組を実施するしかない。ただし、高齢化が進みすぎており、値下げも検討する必要があると思う。

○委員

町内会費を聞いたのは、団体で抜ける方について、費用的な面が問題になっているのではないかと考えたからである。

○会長

高齢者は役を持ってないから高くする、という考えもある。

○会長

80歳近くの方が少年補導や体育振興会の役員になっているが、何をさせていただいていいのかわからない。また、会議に女性参加が多いのは、家族の中で男性が出席すると、どんな役をやらされるかわからないからであると思う。

【各テーブルのまとめ】

○部会長

それでは時間になったため、それぞれのテーブルの議論の内容を発表していただきたい。

【Aテーブル】

- ・ 中川学区は、移住者に強制的に町内会へ加入してもらっているため100%加入。
- ・ 金閣学区は62%。
- ・ 紫野は81%と高めで、住んでいる学生も比較的多く町内会に加入し、運動会の行事にも参加している。さらに、佛大の学生がサークルとして、社会福祉協議会の活動に参加していることから、地域としても学生を受け入れる体制がある。また新築マンションや、オーナーチェンジの賃貸マンションのオーナーにも積極的に加入への働きかけをおこなっている。
- ・ 金閣学区は、あまり加入への取組は行っていない。転入者に加入率は少ない傾向にある。30～40代の担い手不足が心配である。
- ・ 学生は各種団体で活躍する一方、30～40代の未加入者への働きかけをどうするかが課題である。

【Bテーブル】

- ・ 鷹峯は加入率76.5%で北区平均よりは高め、小野郷は二世帯を除いて全て加入。
- ・ 未加入について、転入世帯の子無し夫婦世帯に多い。

- ・ 賃貸マンションのオーナーや施設等には声をかけて入ってもらっている。
- ・ 基本的な人間関係を大切にしている。加入のポイントとして、子どもがきっかけであることが多い。生まれた際や、地藏盆の行事等をきっかけに入る。
- ・ 加入のきっかけを子ども頼りにすると、逆に子どもがいなくなる（成長する）と脱退してしまう裏の問題が心配される。

【Cテーブル】

- ・ 大將軍学区は、加入率55.7%と平均より低めで、これは単身者世帯や、高齢世帯の脱退が原因である。
- ・ 未加入者にも、行政情報は行き届くようにしているが、これにより逆に入ることのメリットがなくなるという一面もある。
- ・ 成功事例として、留学生寮が学区内に建ち、地域住民との交流が生まれ、現在も交流が継続している。
- ・ 入りたい時に、どこに言えば良いのかわからないという声も一定あるようである。

【Dテーブル】

- ・ 加入率は、衣笠、鳳徳が70%前後、雲ヶ畑が90%以上。
- ・ 未加入者の声として、高齢化で、役員や会費負担の増によるものがある。
- ・ セカンドハウス利用者の未加入や、学生の未加入が共通して多い。
- ・ 町内会に入ることを入ることが当たり前と考えている方がいる一方で、入ることにメリットが感じられないという方が未加入となっている。
- ・ 加入率アップの取組として、転入者への声かけや、新規分譲住宅地への団体加入の働きかけを行っている学区があった。
- ・ 自治会加入の呼びかけ以前に、旧村部においては、移住者をどう受け止めるのかという、根本的な話があった。
- ・ 町内会費が元々安く、行事毎に集めているという手法がとられている学区もある。

【Eテーブル】

- ・ 柏野学区は加入率が80%とやや高くこれは、昔からの織物産業が盛んな地域で仕事を通じて住民同士のつながりが高いことや、密集市街地が多くを占めており火災に対しての危機意識の高さ等が要因であるのではないかと思われる。
- ・ 各学区での共通の意見として、高齢世帯において町内会費や役員の負担が原因での脱退や、若い共働き世帯においても役員負担が原因で未加入が多いことが挙げられた。
- ・ 人口減少している一方、世帯数は増加しており、世帯構成人員の減少による家族一人あたりの負担が増えていることも脱退の要因となっていると思われる。
- ・ 柗野学区においては、地域のよさをPRしたリーフレット配布など加入に向けた取組を行っている。
- ・ 失敗例として、町内会全体が高齢化して丸々脱退した例もある。

○部会長

それでは、ワークショップにおける議論については、これで終了とする。活発な意見を出していただけたと思う。

他に会議全般に意見はあるか。

○会長

当学区は他の加入率が全体と比べて低かったことが分かった。

本日の内容についてまとめた資料はいただけるのか。今後の学区の加入促進に活用したい。

○事務局

本日の結果はまとめて、出席者の皆様へ送付する。

○部会長

それでは、これで本日予定されていた議題はすべて終了した。委員の皆さま、活発で有意義な御意見ありがとうございました。それでは、事務局にお返しする。

○事務局

関谷先生、ありがとうございました。また本日、列席の皆様においても、積極的なご議論、ありがとうございました。本日頂いた意見や議論をもとに、今後どうしていくか、について次回以降議論していきたい。次回も皆様の出席を是非お願いします。

最後に、事務局から案内が二点ある。

まず、まちづくり会議のもう一方の部会である空き家をテーマとした部会を来月11月14日(月)に第2回の部会を開催する予定である。詳細は委員全員に案内文を送付するので、時間の許す限り是非出席いただきたい。

続いて、京都市ふるさと納税寄付金の案内です。

<チラシに基づき説明>

本日はこれで終了とする。長時間に渡り、最後までありがとうございました。